

(仮称) 新潟駅・万代地区周辺 将来ビジョン (骨子案)

つながる 2核・水辺・3モール

～ 新潟駅・万代地区周辺は 出会い・交流・地域資源のつながりにより
新しい価値を創造する人中心のまちへ ～

令和4年(2022年) 3月

新潟市

【目次構成】

I はじめに 将来ビジョンの前提

- 1 背景と目的
- 2 目標年次と対象エリア
- 3 新潟駅・万代地区周辺の成り立ち

II 新潟駅・万代駅周辺地区に求められるもの

- 1 新潟駅・万代地区周辺の課題・強み・機会
- 2 エリアに関連する上位計画等
- 3 関係団体・企業・市民等の声
- 4 新潟駅・万代地区周辺に求められること

III 目指す将来像

- 1 目指す将来像
- 2 ストリートの将来像・・・資料6参照
- 3 ひと中心のまちづくりを形成するための都市形成シナリオ

IV 具体的方策と役割分担

V 構造の実現に向けて

今回提示部分

I はじめに 将来ビジョンの前提


1 背景と目的

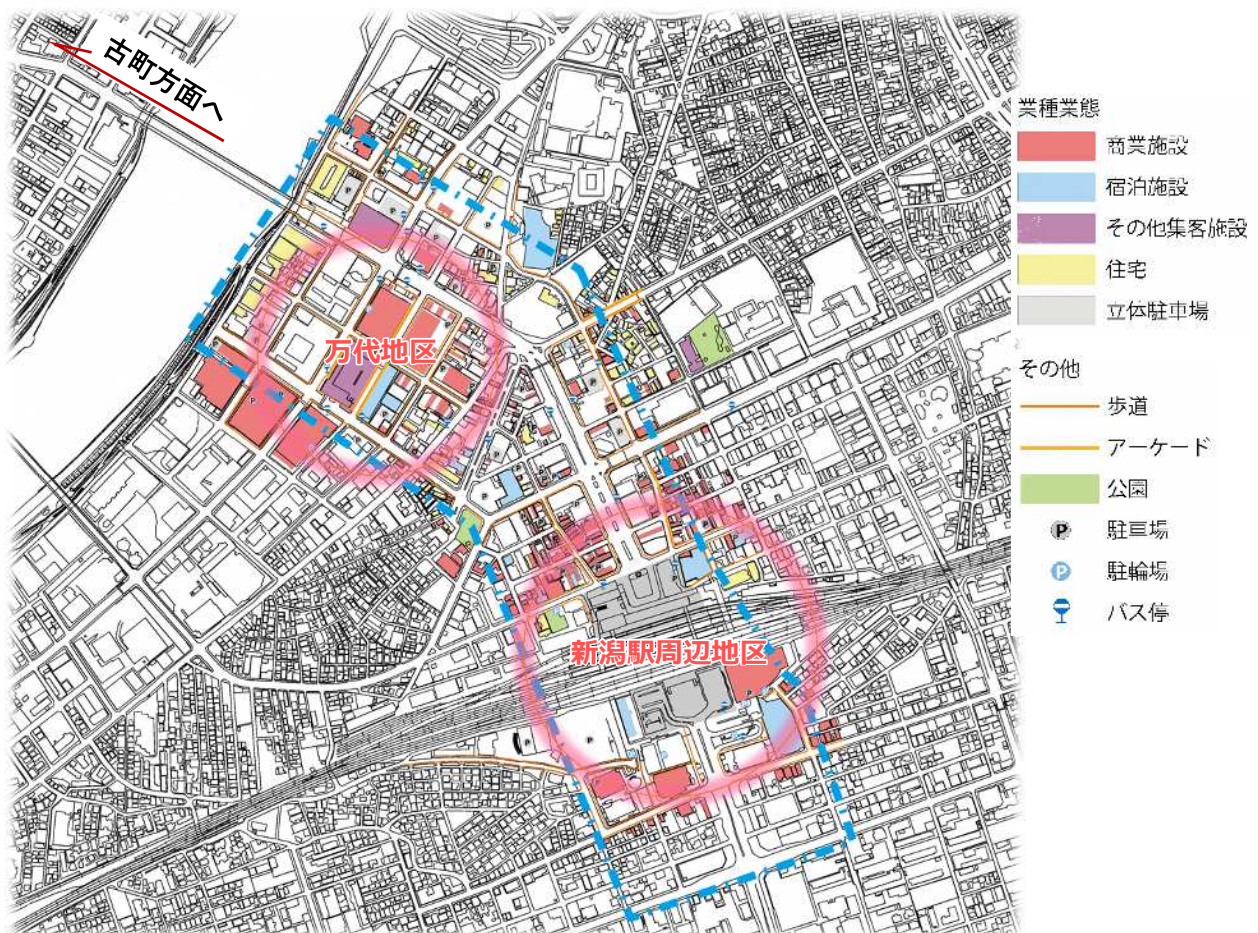
- 新潟の玄関口である新潟駅・万代地区のエリア価値や魅力を高めることは、都心および新潟全体のまちや経済を活性化し、国際競争力を高めるうえで不可欠です。
- 2019年1月1日に開港150周年を迎えた本市では、現在の新潟に至るまでの都市構造の変遷を振り返り、これから先150年を見据えた「新潟都心の都市デザイン」をとりまとめました。
- また、新潟駅周辺が大きく変わろうとしているチャンスを最大限に生かし、質の高い都市再生を戦略的に展開し、本市の更なる拠点性向上と賑わい創出を目指すため、2021年9月に新潟都心地域が都市再生緊急整備地域の指定を受けました。

「新潟都心の都市デザイン」の実現に向けて官民の事業が進捗するなか、当該地区にかかわる多様な関係者と**目指すべき将来の姿を共有**するため、「**(仮称)新潟駅・万代地区周辺将来ビジョン**」を策定します。

2 目標年次と対象エリア

- 概ね**20年後**を目標年次に見据え、段階的な都市再生を目指します。
- 対象エリアは**新潟駅および万代地区の周辺**とします。

 未来ビジョンの対象エリア



新潟駅・万代地区周辺の成り立ち

- 当該エリアは信濃川の中州が寄り付いて成長し島となり、陸地へと変わっていき、新田村「流作場新田」が誕生しました。
- 1886年に初代萬代橋が開通し、1904年には信濃川沿い（現在の弁天公園付近）に新潟駅が開業しました。この頃、流作場新田は流作場に改称され、新潟町と沼垂町をつなぐ場としての機能が拡充されていきます。
- 1929年には、三代目萬代橋の完成とともに信濃川兩岸の埋立工事が行われ、現在の万代シティに道路等の都市基盤が整備されます。
- 1954年には新潟駅前土地区画整理事業が着工し、1958年に新潟駅が現在の位置に移転。1959年には新潟駅裏土地区画整理事業の着工と都市基盤の整備が拡大していきます。
- このように、当該エリアは信濃川の中州から始まり、**流作場を中心に周辺地域とつながりにより発展してきました。**

寛延3年(1750)
新田村「流作場新田」の誕生

明治元年(1868)
新政府が新潟を開港する

明治19年(1886)
初代「萬代橋」の開通

明治37年(1904)
新潟駅の開業

大正3年(1914)
新潟町と沼垂町の合併

大正11年(1922)
大河津分水路通水

昭和4年(1929)
三代目「萬代橋」の完成
信濃川兩岸の埋め立て工事着工

昭和29年(1954)
新潟駅前土地区画整理事業着工

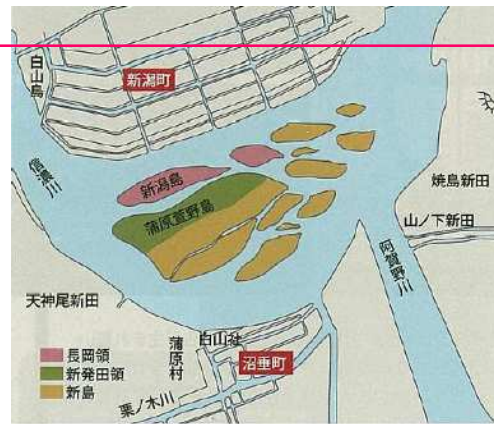
昭和33年(1958)
新潟駅 現在の場所へ移転

昭和34年(1959)
新潟駅裏(今の南口)
土地区画整理事業着工

昭和47年(1972)
関屋分水路通水

昭和48年(1973)
万代シティオープン

元禄12年(1699)



図A 元禄12年(1699)4月 沼垂新田村立合帳図写(部分)
『新潟市史』通史編2 近世(下)から作成

延享4年(1747)



図B 延享4年(1747) 沼垂新田村立合帳図写(部分)
『新潟市史』通史編2 近世(下)から作成、一部改変



二代目萬代橋の隣に
新しく架けられた
三代目萬代橋



昭和25年(1950)頃



昭和44年(1969)頃



昭和53年(1978)頃

2 新潟駅・万代地区周辺に求められるもの

1 新潟駅・万代地区周辺の課題・強み・機会

弱み

土地利用 建物の老朽化の進行
低未利用地の増加
(都市のスポンジ化)
地価の停滞

交通 交通環境の整備が不十分
(鉄道による市街地の分断など)

公共空間 居場所となる空間が少ない
自動車中心の道路空間
公共空間の活用が不十分

組織 エリア間の連携意識の萌芽はあるが、体制は固まっていない

強み

基盤再編 広域交通の結節点
新潟駅周辺整備事業の推進
万代シテイリニューアル
次世代通信環境の整備
公民連携スマートシティの推進
都市再生緊急整備地域の指定

地域資源 新潟市のシンボル萬代橋とその遺構
信濃川の魅力的な水辺

プレイヤー 多様な民間のプレイヤーが存在
プレイヤー間の連携意識の萌芽
やすらぎ堤等公共空間が活性化

機会

新しい生活様式 新たなライフスタイルへの転換と価値観の変化
選ばれる都心としての魅力発信の好機

都市再生 居心地が良く歩きたくなる
まちなかづくり
まちづくりと連携した駐車場施策

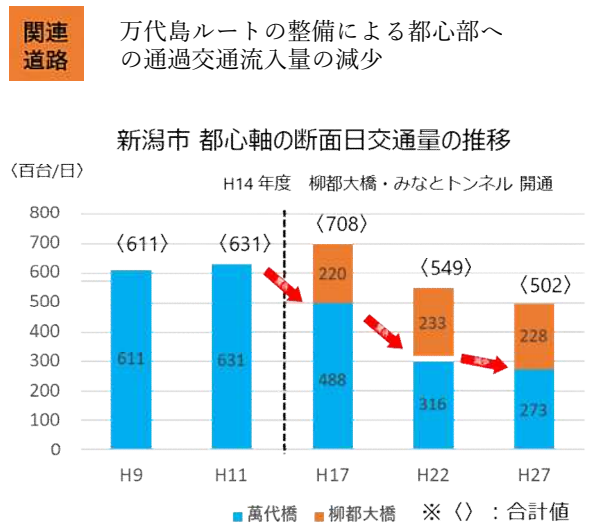
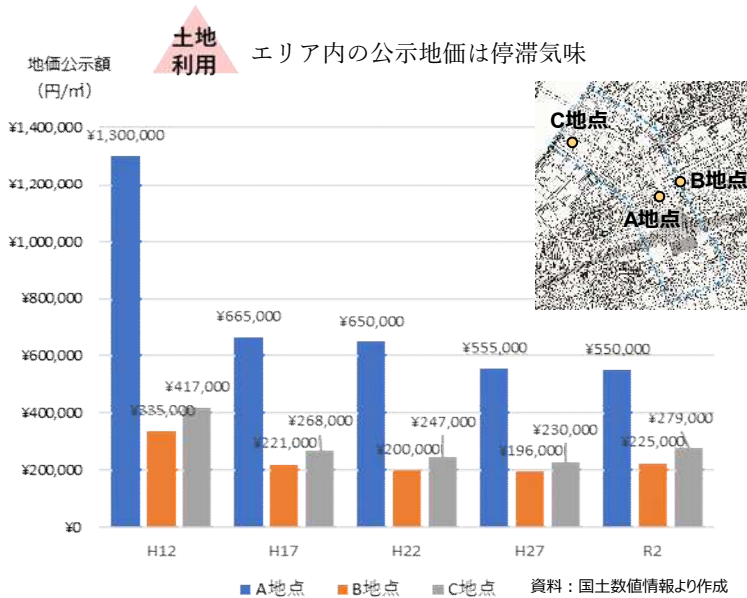
Society 5.0 デジタルトランスフォーメーション(※1)や新たな産業創出

環境防災SDGs 災害・感染症等に対応した安心できる都市環境
環境や社会に配慮した投資など環境意識の高まり
SDGs(※2)の推進

関連道路 万代島ルートの整備による都心部への通過交通流入量の減少

※1：進化を続けるデジタルテクノロジーが、人々の生活に影響を与え、日々の生活を豊かにしていくという概念
※2：Sustainable Development Goals 2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標

弱み・強み・機会に関するデータや現況の例



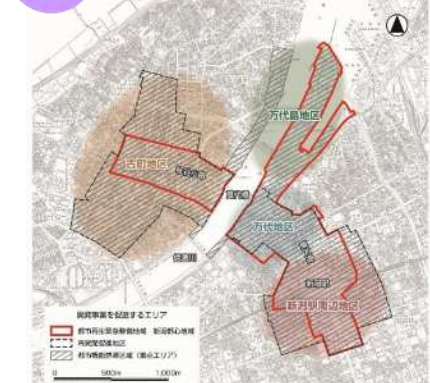
地域資源 新潟市のシンボル萬代橋や信濃川の魅力的な水辺



プレイヤー プレイヤー間の連携意識の萌芽(地域主導で実施した社会実験 作場StreetPark 2021年10月)



基盤再編 都市再生緊急整備地域の指定



【都市計画マスタープラン】

(令和4年度改定予定)

- 当該エリアは、新潟市全体の都市構造のなかでも「都心」の一部として形成
- 都心は「市域全体や広域都市圏を支える、商業・業務・医療・福祉、文化・教育など多様な高次都市機能を集積」することが求められる



【都心のまちづくり【「にいがた2km」の覚醒】】

(～市民とともに「かわ・まち・みなと」で紡ぐ過去から未来への成長エンジン～)

- 【「にいがた2km」の覚醒】は「選ばれる都市 新潟市」の実現に向け、これからの都心のまちづくりの方向性を示すものです。基本方針として以下の3つを柱としています。

1. 人・モノ・情報の中心拠点となる 稼げる都心づくり

～官民協働による「稼げる都心づくり」を推進し、その成長エネルギーを全市域へ波及～

2. 都心と8区の魅力・強みのコラボレーションによる 新たな価値の創造

～都市と田園が調和する本市の魅力発信と、異業種間の協業・変革を進め、次世代に向けたまちづくり～

3. 居心地が良く、市民が主役になるまちづくり

～都市緑化の推進、道路空間・水辺空間の有効活用など、ゆとりと潤いのあるまちづくり～



- 都心部の魅力あるまちづくりに向けて、様々な機会を通して関係団体や企業・市民の皆さんから、ご意見・ご提案をいただきました。

100団体ヒアリング@都心のまちづくり
(令和3年5月)

- 都心に多種多様な人が集まる、地域がつながる
- 官民連携のエリアマネジメントの仕組みづくりが重要
- 企業がつながるプラットフォームが必要
- ウォーカブルシティ、都市緑化の推進
- シェアサイクルやパーソナルモビリティの導入
- 新潟の文化をつなげるPR
- 「水の都にいがた」としての都市ブランディング

など

【「にいがた2km」の覚醒】公表に伴う約200の意見 (令和3年9月～)

- 新潟駅のリニューアルを起爆剤として、駅南から古町をつなぐ賑わい創出を
- 子供、高齢者、障がい者などが幅広く気軽に一緒にスポーツを楽しめる環境整備を
- 水辺のアクティビティなど、新潟でしかできない取組の充実を
- オフィスビルを津波避難ビルや災害備蓄倉庫として活用し、防災機能の向上を
- 来街者へのおもてなしの表現を

など

「流作場StreetPark」社会実験
来街者インタビュー
(令和3年10月)

<新潟駅・万代地区の理想の姿>

- 子どもから大人までみんなが楽しめる空間
- 安心感のある街並み
- 見て楽しい・行って楽しいと思える街へ。幅広い世代の方々の笑顔が集まる場所になりますように
- 公園がたくさんある町 など

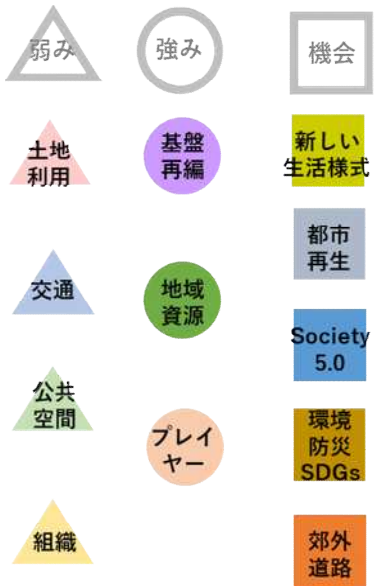


※上記のほか、公共空間を活用するプレイヤーへのヒアリングや、新潟市HAPPYターンサポーターへのアンケートを実施

新潟駅・万代地区周辺の課題・強み・機会

エリアに関連する上位計画等

関係団体・企業・市民等の声



- 当該エリアは新潟市全体を支える「都心」の一部を担う
 - 「選ばれる都市 新潟市」の実現に向け都心のまちづくりの取組の方針は以下の3本柱
1. 人・モノ・情報の中心拠点となる稼げる都心づくり
 2. 都心と8区の魅力・強みのコラボレーションによる新たな価値の創造
 3. 居心地が良く、市民が主役になるまちづくり

賑わい 官民連携

安全安心

観光・交流

歩いて楽しい 良好な景観

食の文化発信

水辺・水の都

4 新潟駅・万代地区周辺に求められること = 「つながる」まちづくり

新潟駅・万代地区周辺では、人がつながる、モノとコトがつながる、都心と地域がつながることで、出会いが生まれ、イノベーション（革新）が創出される「訪れたいまち」「ビジネスを展開したいまち」となり、都心の成長エネルギーを市域全体へ波及させることが求められています。



公共交通と人中心の空間再編に官民の投資が行われている状況を契機として、自動車中心から、人にやさしく、人とまちの接点が多い移動（交通）への転換を促すため、メリハリのある空間再編が求められています。



道路などの交通基盤の再編によって生み出される公共空間を人中心の居心地がよく歩きたくなる空間に転換することにより、出会いや交流の機会の創出が求められています。



都市再生緊急整備地域の指定や、建物の更新を契機として、エリアごとの特性に応じた土地利用の更新、都市機能の集積、景観誘導、駐車場適正配置などを戦略的に展開し、持続可能なまちづくりが求められています。



上記の取組を戦略的かつ持続的に取り組んでいくため、官民の多様な人材が集積し、ビジョンや情報を共有しながら、エリア内外の人やモノ、コト、情報をつなげるプラットフォームが求められています。また、エリアの魅力と価値の向上に資する取組を継続的に関わる人材を育て、つなげていく仕組みが求められています。

人・モノ・コト・情報がつながり、豊かで幸せな都心のライフスタイルを実現

